

情熱の強者

帝キネ時代映畫

原作並脚色者

勝本勝雄

監督者

渡邊新太郎

撮影者

谷口

主演者

松本田三郎

紹介者

第三百四號

権門に生れたものさ、小緑の家に育つた二人の武士の、宿命的な生活を基調としてゐる作品である。田三郎の小緑武士、延松の家老の息子は既に性格的に、對照をなしてゐる。二人の間に介在する戀愛問題が少し深刻に——性格的に織込まれてあり、ラストに至つての例の多い捕吏とのパッタ斬りさへなかつたら、此の作品はもつと品位を高めたに相違ない。そして権門の子が小緑者と朋友の間柄であらしめたら更に人間の潤ひが生じたに相違ない。が作者は、いさも軽々と常識的に事件と心理とを片づけてゐる。監督者は其の事件と性格にかなり苦心の擧句、表現を試みた點も察しられるが、例の帝キネ風のマンネリズムに支配され勝ちで、尙一息の處で喰ひ足りないものが屢々感じられた。お互ひの真人の運命を決する紅白試合の當日、家にある妻たちの氣持の表現は成功だつたが、香折(千草香子)の方の性格が不鮮明に終つてゐたのは惜しい。殺陣に於けるカメラアングルは新しい所を多く見せてゐた。が完全だとは云ひ得ない。(寫眞版紹介號)

水町 青磁

興行價値——一般にも受ける帝キネとしてはレベルに達してゐる作品だ。田三郎、延松、鶴子香子の對立的出演は作品以上に期待されるに相違ない。(八月十二日 大阪青邊劇場 神戸相生座封切)